

文化 大府と文化財

大府に刻まれてきた
営みの記憶

豊かな自然環境が魅力の大府には、先人たちの知恵が詰まったレガシーが残っています。今も残る歴史ある文化財。歴史が心を躍らせます。



大倉公園茅葺門／平成27年に国の登録有形文化財に登録。古き時代の趣きを現代に伝える市のシンボルの茅葺門。茅葺き屋根は友好都市である岩手県遠野市の職人により手掛けられた。



大倉公園休憩棟／平成27年に国の登録有形文化財に登録。庭に面した4つの和室が2室連なるL字型。太平洋戦争中に造られた鉄筋コンクリート造の防空壕が現存している。



明神川逆水樋門／令和3年に国の登録有形文化財に登録。明神樋門同様に、人造石工法で築いた壁体を重ねている。近代土木遺産の一つ。



明神樋門／令和3年に国の登録有形文化財に登録。樋門とは川や排水路の堤防を交差するトンネルのことで大きな川から逆流する水を止める役割を果たしている。明神川と五箇村川を立体交差させるために設けられた貴重な史跡。

文化 大府と祭り

「三番叟 ―さんばそう―」

熱い思いで受け継がれる伝統

天下太平と五穀豊穡を祈願し、優雅に舞う

大府市横根町惣作に所在する横根藤井神社で毎年10月の第2日曜日に行われる祭礼。この祭礼では、子どもたちが優雅に舞い、世の中の安穏と豊作を願う「三番叟」と石丸・中・南の各組が先祖代々大切に守ってきた山車が奉納されます。い

ずれも江戸時代から伝わるもので、三番叟は大府市無形民俗文化財に、山車は大府市有形民俗文化財に指定されています。山車は、高さ約6メートル・幅約3メートル・奥行き約4メートルで、手の込んだ彫刻や金箔で装飾されています。

豊穡に感謝し舞う

祭礼の目玉「三番叟」。各組から選ばれた子どもたちが山車の前に設置された舞台で、3人で演じる「式三番叟」、1人で演じる「三番叟」を華麗に舞います。その所作、身のこなし

横根藤井神社祭礼



は、各組において大人から子どもへ脈々と受け継がれています。